



藤原 孟 議員
(無党派)

問

全ての町民が気候危機を自分のこととしてとらえ行動を変えることが必要と考え、エコな暮らしを気付いて築くため、日々の暮らしを明るく楽しく、そのような生活の応援をする場を商店街の空き店舗に開設してはどうか。

国の脱炭素政策はエネルギーの供給側の新技術の開発が主流であるが、近年は産業や運輸、家庭、農業など需要側の対策を検討し、進めようとしている。それ故に脱炭素社会の実現に少しでも貢献するため、低コストで身近な対策の一つとして「幕別環境ひろば」の開設を求める。この開設の目的の一つ目は、地域の交流拠点とする。二つ目は、エコ情報を発信する拠点とする。三つ目は、環境問題に住民と企業や行政との新しい共同関係を創設していく事だが、以下の点について伺う。

(1) 町民にとって公共的財産であった廃業した銭湯を使い開設しては。(2) 定住のために地域おこし協力隊の人材を活用してはどうか。

問

幕別環境ひろばの開設を商店街に

幕別町地球温暖化対策推進委員会において提案を含め検討する

(3) 町からの支援策は。
(4) 子どもたちへの町の環境教育の取り組みについて。
(5) 3R・低炭素社会検定の受験を進めるため、小中高の若者に助成は。

町長

(1)、(2)、(3) 廃業した銭湯を活用した、環境問題等の各種取組については、いずれも町民や事業者が、環境を考え、意識の向上を図り、行動へと結びつけていく機会として大切なことと認識している。

9月中旬に大学教授や事業者、町民等の代表者15人で組織する「幕別町地球温暖化対策推進委員会」を立ち上げ、町民等とともに環境を考え、意識を共有しながら、具体的な温室効果ガス削減目標や、その対策および行動計画等を定めた(仮称)「幕別町地球温暖化対策実行計画」を策定する。今後、提案のあったことも含め検討する。

(5) 原則、個人の資格につながる各種資格試験等に対する助成は行っていないが、幕別清陵高等学校に

【解説】

「3R・低炭素社会検定試験」とは、ごみ・循環型社会に関する「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」の知識や、地球温暖化に関する低炭素社会の環境理念に関する知識をもった人(リーダー)の動きとつながりをつくるための検定です。検定は「3R部門」と「低炭素社会部門」の2つがある。

教育長

(4) 環境教育については「学習指導要領」に基づき、学校経営計画の一つとして環境教育計画を定め、

環境や資源、エネルギー等に関心を持ち、自然を大切にしようとする心を育むことなどを目標に掲げ、社会科学や理科のみならず、さまざまな教科で教科等横断的に学習している。

また、昨年度から中学校でSDGsを学習する取組の一つとして、カードゲーム公認ファシリテーターを講師として出前授業を実施し、持続可能な環境について学習している。

環境教育は、持続可能な社会の構築に向けて、大切な取組の一つと認識し、小中学校において、引き続き教科等横断的な視点に立った教育活動を行っていく中で、子どもたちが環境問題について学習し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいけるよう努める。

